

コメント

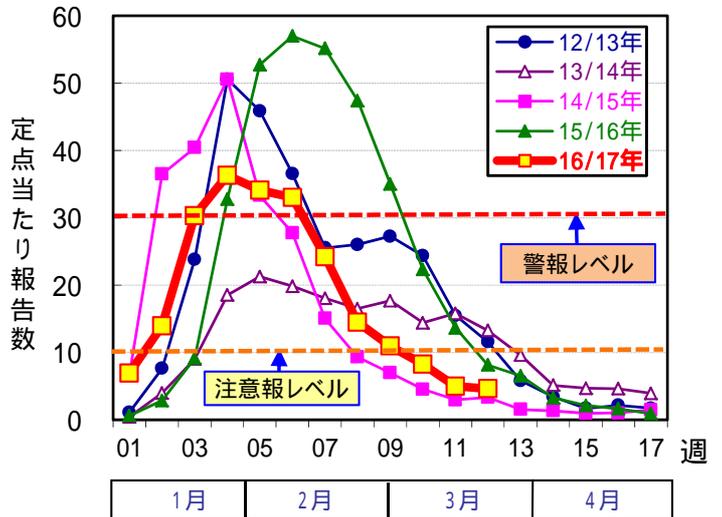
1. インフルエンザ

定点当たり4.65人の報告がありました。
 例年、春休み後に再び報告数が増加し、小規模な流行が5月頃まで続く傾向がみられるため、引き続き、手洗い、咳エチケットなど感染予防対策を心がけましょう。
 市内の基幹病院2か所(インフルエンザ定点ではない)による迅速診断キット検査結果では、A型陽性が97人、B型陽性が4人報告されています。また、広島市衛生研究所による遺伝子検査の結果では、今シーズンは、A(H1N1)2009型が1件、A(H3)型が26件、B型(ビクトリア系統)が2件、B型(山形系統)が1件検出されています(3月26日現在速報値)。

2. レジオネラ症

4件の報告があり、今年の累計は5件となりました。
 (次頁参照)

インフルエンザの流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	172	4.65	8.04	⇒	小児科	流行性耳下腺炎	4	0.17	0.45	
小児科	咽頭結膜熱	19	0.79	0.33	⇐	眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.13	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	62	2.58	1.93	⇒		急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	98	4.08	8.26	⇒	基幹	流行性角結膜炎	5	0.63	0.40	
	水痘	11	0.46	0.74			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	13	0.54	0.18			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.19			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	6	0.25	0.33			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.43		
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.03							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	⇔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	35	男性(20歳代)・1人、男性(50歳代)・1人
4	レジオネラ症	4	5	男性(60歳代)・4人
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	男性(60歳代)

定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第8週	537	8	65	76	12	17	4	12	-	7	1	-	7	-	-	2	-	-	-
	第9週	407	6	52	103	13	8	3	9	-	1	3	5	-	3	-	-	1	-	-	-
	第10週	306	18	83	93	9	9	7	10	-	-	5	8	-	1	-	-	2	-	-	-
	第11週	184	14	57	101	8	7	3	8	1	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-
	第12週	172	19	62	98	11	13	-	6	-	3	4	1	-	5	-	-	-	-	-	3
定点当たり	広島市	第8週	14.51	0.33	2.71	3.17	0.50	0.71	0.17	0.50	-	0.29	0.04	-	0.88	-	-	0.29	-	-	-
	第9週	11.00	0.25	2.17	4.29	0.54	0.33	0.13	0.38	-	0.04	0.13	0.21	-	0.38	-	-	0.14	-	-	-
	第10週	8.27	0.75	3.46	3.88	0.38	0.38	0.29	0.42	-	-	0.21	0.33	-	0.13	-	-	0.29	-	-	-
	第11週	4.97	0.58	2.38	4.21	0.33	0.29	0.13	0.33	0.04	0.04	0.04	0.04	-	0.25	-	-	-	-	-	-
	第12週	4.65	0.79	2.58	4.08	0.46	0.54	-	0.25	-	0.13	0.17	0.04	-	0.63	-	-	-	-	-	0.43
全国	第10週	11.09	0.39	2.61	5.59	0.35	0.13	0.08	0.40	0.01	0.02	0.65	0.23	0.02	0.45	0.02	0.03	0.34	0.01	0.39	
第11週	10.33	0.39	2.60	5.80	0.37	0.11	0.07	0.43	0.01	0.02	0.62	0.22	0.01	0.46	0.02	0.04	0.28	0.01	0.59		

新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱 上気道炎	14	不詳	2017/02/09	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスA(H3)型
インフルエンザ	発熱(38.7) 咽頭炎 鼻炎	13	女	2017/02/14	鼻汁(拭い液)	インフルエンザウイルスA(H3)型
インフルエンザ	発熱(39.1)	2	男	2017/02/18	鼻汁(拭い液)	インフルエンザウイルスA(H3)型
流行性耳下腺炎	発熱(40.2) 項部硬直 頭痛	12	男	2017/02/09	髄液	ムンプスウイルス
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜充血 眼脂	47	男	2017/02/06	結膜擦過物	アデノウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.1) 上気道炎	0	男	2017/02/09	咽頭拭い液 鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 咽頭炎 気管支炎	0	男	2017/02/16	結膜擦過物	ライノウイルス
その他の消化器疾患	腸重積	1	男	2017/02/14	糞便	アデノウイルス3型
その他の疾患	発熱(39.2)	0	女	2017/02/05	糞便	コクサッキーウイルスB2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

広島県内でレジオネラ症の集団発生が報告されています！

3月18日以降、県内の複数の医療機関からレジオネラ症の報告があり、3月28日現在、50例報告されています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することで感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38 以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難などの症状が出現し、胸部X線で急速進行性の肺炎の所見が認められます。乳幼児や高齢者、免疫力の低下したヒトは、肺炎を起こす危険性が高く、特に注意が必要です。

症状などからレジオネラ症が疑われる場合には、速やかに医療機関を受診しましょう。

最新情報は、広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)HP「【重要なお知らせ】レジオネラ症の集団発生について(随時更新)」にてご確認ください。

URL <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/rejionera.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2017年第12週(3月20日～3月26日)